

障害者歯科疾患論

講 師	横 田 朋 久	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	障害のある児または者の歯や口腔の特徴と歯科保健・医療・福祉を理解し、歯科衛生業務を行うことができる。				
授 業 概 要	障害のある人に対する歯科医療においては、歯科衛生士の役割は大きくかつ重要である。本授業では、障害のある人に対する歯科医療の総論と各論について教授する。これにより、障害のある人に対する歯科医療における歯科衛生士の役割や業務について理解させる。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 医歯薬出版				
履修上の注意	口腔保健センターの臨床実習(見学)があるので、授業の復習を行い臨床実習へ結びつけてほしい。				
参 考 書	緒方克也、柿木保明 編 歯科衛生士講座 障害者歯科学 2014 永末書店 日本障害者歯科学会 編 スペシャルニーズデンティストリー「障害者歯科」2017 医歯薬出版 長田 豊「障害のある方の歯とお口のガイドブック」2014 デンタルダイヤモンド社 長田 豊、和泉雄一 監修 Periodontics for Special needs Patients 障害者・有病者の歯周治療 2017 デンタルダイヤモンド社 金子芳洋 編「食べる機能の障害」1987 医歯薬出版				
教員の職務経験 (科目との関連性)	口腔保健センターに勤務し診療に携わっている。障害のある人に対する歯科医療について講義を行う。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標(SBOs)
1	障害の概念	スペシャルニーズおよび障害の概念を説明できる。 ICFについて説明できる。 障害の受容、リハビリテーションとQOLが説明できる。 ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。 障害のある人と福祉制度について説明できる。
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①知的障害	左記の各障害について、定義と概要、口腔と歯の特徴、歯科治療と歯科衛生業務における留意点について理解し、説明できる。
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ②運動障害	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ③感覚障害、音声言語障害、精神障害	
5	障害のある人に対する歯科医療と行動調整	障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる。 歯科医療において用いられる行動調整法と歯科衛生士の役割を説明できる。
6	健康支援と口腔衛生管理	障害のある人の口腔ケアを説明できる。 専門的口腔ケアを説明できる。
7	リスク評価と安全管理	障害のある人に対する歯科医療におけるリスクおよびリスク評価について説明できる。 医療機関における安全管理の概要を説明できる。 障害のある人に対する歯科医療における感染対策の基本を説明できる。 障害のある人に対する歯科医療における感染予防対策の留意点を列挙する。
8	摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	摂食・嚥下障害と口腔管理および栄養管理について説明できる。 摂食・嚥下障害の評価法について説明できる。 摂食機能療法(摂食介助法、機能訓練法)について説明できる。 小児期の評価と対処法について説明できる。 成人期・老年期の評価と対処法について説明できる。 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割について説明できる。
9	地域における障害者歯科 障害を有する人に対する歯科衛生過程	医療連携の必要性を説明できる。 医科歯科連携を説明できる。 障害のある人に対する歯科医療における典型的な症例を歯科衛生過程で学習する。
10	科目総まとめ	障害者歯科についての理解度を評価することができる。